

医療関係者と介護関係者が連携しネットワークを構成することで埼玉県東部地区の高齢化社会に対応していこうという埼玉利根医療圏による「高齢化社会対策・地域包括ケア研究会」が 8 日スタート、医療・介護関係者等を中心に 80 名を超える人が参集して、現状や先進的取り組みなどの講演会と情報交換を行なった。



この研究会を主宰した「NPO 法人埼玉利根医療圏糖尿病ネットワーク」の高井孝二理事長（東埼玉総合病院院長）は「埼玉県は人口当たりの医師の数が少ない県、中でもこの地域は医療のポケットといわれる地域。その中で高齢化社会に、医療、介護に携わるものとしてどう対応していくか。まずこの現状を知ってもらい、それに対応していこうとの活動を理解し、そして参加して欲しい」と、医療と介護が連携して取り組んでいこうと呼びかけた。



「彩の国いきいきセンター すぎとピア」（埼玉県北葛飾郡杉戸町）で午後 6 時過ぎから始まった同研究会には、最前線で活動している医療関係者や介護関係者など 80 名を超える人が集まった。

現状認識や様々な取り組み例を知るための一般講演や特別講演が行なわれ、医療と介護の連携に向けた情報の共有と意見交換が行なわれた。